

簡単な防犯

山口県周南市立周陽中学校 3年 黒崎 芽衣



防犯は、私たち未成年には難しいことだろうと思う人がいるかもしれない。でもそれは大きな間違いであって、普段行っていることが防犯につながるのではないかと私は日常生活で気がついた。

そのきっかけは、私が朝、学校に向かっている時だった。私はあるおじいさんと朝のあいさつの一言で仲良くなった。そのおじいさんは、出会う度にたくさん話をしてくれたり、ときにはみかんをくれたりした。そんなおじいさんがある時私に言った。

「やけたねー。」

私は、おじいさんがそんな小さな変化に気づいていることに驚いた。何も関わりのない、ただの中学生の変化に気づくことなど相当難しいと思う。おじいさんが私の小さな変化に気づいてくれたのは、自分の住んでいる地域に関心を持ち、同じ地域に住んでいる人を大切にしているからこそだと思う。

私はある漫画で犯罪を犯す人は、あいさつをする人が少なく、ルールを守らない人がいるような地域を狙うという情報を知った。なぜなのか、それは周りの人に興味がない人が多いからだそう。ルールを守らない人を注意する人がいないし、地域の方と関わろうとする人が少ないということは、いつもと違うことや異変があっても気付かないだろう。そうすると、悪い人がそんな地域に行ってもバレないから犯罪を犯すには都合のよい場所になってしまうだろう。

これらの体験を基に、私は防犯について考えてみた。私が出した結論として、犯罪の起こりにくい、犯罪しにくいような環境づくりから始めていくことが大切だと思った。あいさつはもちろん、地域の方と少し会話してみることも大切だと思う。私も実際、あいさつから親しくなった方がたくさんいる。たくさんの方が地域の方と関わりを持っていくことが犯罪の起こりにくい環境づくりの第一歩だと思う。

他にも、私たちができる環境づくりにはどのようなものがあるだろうか。ポイ捨てをしない、ごみが落ちているなら拾う、自転車の2人乗りや傘さし運転、ながらスマホなどをせず、交通規則を守る、地域の行事やボランティア活動などをしっかり行い、地域の方との人間関係を育むなど当たり前のことから始めていけると思う。

防犯のもう一つの考え方として、犯罪を犯す人を減らすということだ。犯罪を犯す理由が環境的要因だった場合も環境を整えることで少しは犯罪を減らすことかてきるだろう。犯罪を犯す理由の環境的要因の例を調べてみた。周りに

犯罪の道に誘う人がいたり、学校や職場の人間関係で困ったりなどが原因になると分かった。これらの原因も環境を整えることで犯罪を減らすことができるのだろうか。人に誘われて犯罪の道に進むということは、きっぱり断ることができればなくなると思う。きっぱり断る力は、小さい頃からの人間関係で身に付くと思う。

最近のニュースでも、「闇バイト」という言葉をよく聞く。お金を簡単に稼げるということにひかれて、若い人が犯罪に加担することか増えている。これも、人に誘われて犯罪を犯す人が多い。誘われた時に、本当にそれは大丈夫なのかと、しっかり周りの大人に確認することが大切だ。親に言いにくくても、普段から親しくしている大人がいれば、相談することができる。

学校や職場の人間関係に困って犯罪を犯すということも、普段からのコミュニケーションで、人間関係を良くする方法も学ぶことができ、人間関係で悩むことが少なくなるだろう。もし困ったことがあっても、相談できる人がいることで、解決できる。

このように犯罪を犯す理由の環境的要因は、普段からの人間関係やコミュニケーションが解決してくれる可能性があるのではないかと思った。

防犯とは人にやってもらうことではない。自分で何かできることはないのか、考えてみることで、意識していなくても、防犯につながる行動があるかもしれない。

私が考えた防犯、「環境を変えていく」ことはとても簡単なことから始めることができる。今まで恥ずかしくてあいさつができなかった人、地域の行事に積極的に参加してこなかった人、少しだけ勇気を出して少しずつでも自分の住んでいる地域を大切にしていけることで、犯罪を防ぐことができるかもしれない。

これらの行動は、防犯だけでなく、たくさんの方が楽しく笑顔で過ごせるような環境にも変えてくれるだろう。たった一人の行動が地域全体を変えてくれると私は思っている。

しかし、そんなことよりも、防犯は自分でも簡単にできるという意識を持って生活することが一番大切なことなのかもしれない。